

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 支援 - 29

学校名・団体名	甲佐町立白旗小学校
HPアドレス	http://es.higo.ed.jp/sirahata/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	地域に笑顔と元気を届けるプロジェクト
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校は、昨年熊本地震を経験し、地域の方やボランティアの方々から多くの支援や励ましを受けてきた。児童の約1割から仮設住宅や見なし仮設住宅から通学している。また、本校区に3カ所の仮設住宅もある。昨年は、一方的に支援を受けるだけではなく、感謝の心を発信していこうと取り組みを始めた。「地域に笑顔と元気を届けよう」と仮設住宅にプランターを届けたり、お米を届けたりと交流を図ってきた。また、本校区は、地震以外にも、水害や土砂崩れなど多くの危険性のある地域でもある。あらゆる場面で、「自分の身は自分で守る」「地域の人と共に生きる」児童を育成していく必要がある。</p> <p>そこで、地域に「笑顔と元気を届けるプロジェクト」を柱とした防災教育に学校総体で取り組んできた。</p>	

(ねらい)

- ① 総合的な学習の時間等で、地域に笑顔と元気を届けるために、ボランティア活動を行ったり、地域の人々と交流したりするなどの活動を通して、郷土を見直し、郷土のよさにふれ、自分の郷土を守っていこうとする主体性のある児童を育成する。
- ② 教職員の危機管理意識を高め、防災教育の計画を見直し、避難訓練をはじめ、地域・家庭と一体となった教育活動全体での防災教育を推進する。

(活動時期および内容)

5月 【運動会】(全学年)

地域の方と一緒に作る運動会ということで、児童会を中心に取り組み、全校児童で心に残る運動会を実施できるようにした。本年度のスローガンは「負けても勝ってもみんなにっこり、絆を結び勇気と元気を届けよう」に決まり、自分たちの手で地域の人に元気を届けようと取り組んだ。また、仮設住宅の方に参加の呼びかけのチラシを作成し、運動会へ招待した。

年間【フラワースマイルプロジェクト】(全学年)(生活科、総合的な学習の時間)

学校で種から育てた花の苗をプランターに植えて仮設住宅にプレゼントする活動。



児童は、毎朝種から花の苗を育てるボランティアを続けている。夏、秋、春と季節に応じた花の苗を育て、仮設住宅に設置している。低学年は、プランターのメッセージを書いている。ボランティアをする児童の人数も増え、自主的に水やりや草取りなど取り組む姿も見られている。春の花苗は、種から4000苗育て、3月に配布予定である。

6月～1月 【元気米プロジェクト～おいしいお米を育てよう～】(5年)総合的な学習の時間



(田植えをしよう)

本年度は、仮設住宅の方と一緒に活動したいという児童の思いから、田植えの案内状の作成から取組をすすめた。作成した案内状は仮設住宅で5年生の児童が1件1件配布をした。「田植えに来て下さい」の呼びかけを自分の言葉で伝えていた。



(稲刈りをしよう)

田植え後、地域の方にお世話になって育てているお米に「元気米」～13人の思いを込めて～と名前をつけた。稲刈りも案内文を作成し、仮設住宅の方に配布した。実際に、仮設住宅の方が参加していただき、児童は大変喜んで活動した。



(元気米を届けよう、収穫祭)

元気米は、仮設住宅の方に届けた。また、ライオンズクラブや地域の方の協力で仮設住宅での収穫祭を実施した。仮設住宅の方も30人以上参加していただき、交流を深めることができ、参加者が笑顔の活動であった。

6月 ぼうさい講演会



さくらネットの河田のどかさんと親子ぼうさい講演会を実施した。児童には心のリラクセスの方法やまた地震があったときの対応の方法など考えることができた。保護者には、地震後の児童の心のケアとトラウマについて河田さんの経験した内容で、大変好評な講演会だった。

7月 【幸せの黄色いひまわりプロジェクト】(3、4年):総合的な学習の時間



「はるかひまわり」の絵本の読み聞かせで、ひまわりを育てたいと意欲的に取り組むことができた。神戸からいただいたはるかひまわりの種を3、4年生が地域の方と一緒に植えた。大雨等で思うように育たなかったが、命の尊さについて考える機会になった。

7月12月 【スマイルレタープロジェクト】(全学年)

暑中見舞いと年賀状を年間2回、仮設住宅の方やお世話にねっている方に送っている。1人1人が心を込めて書いている。年2回の交流であるが、仮設住宅の方も大変喜ばれている。1年生もていねいに読めるようにと相手意識をもって取り組んでいた。多くの方からお返事もいただきミニ交流ができています。

11月 【防災教育ワークショップ】(全学年・保護者・地域の方)



さくらネットの河田のどかさんと大学生3名の方でぼうさいワークショップを行った。災害時に何が出来るか親子で考え、身近な物を使った災害グッズを実際につくった。「家でもつくった」と意欲的な児童の姿がみられた。

3月 【夢 発表会】(6年・学年代表)



1～5年の各学級の代表1名と6年生全員が自分の「夢 発表」を行った。6年生の発表の中には、熊本地震でお世話になった方々の姿から人の役に立つ仕事、人を元気にする仕事などをしたいなど、堂々と発表していた。

(成果)

- 児童・保護者・職員の防災意識が高まった。予告なしの避難訓練なども実施し、スムーズに避難することができた。また、講演会などで地震後の心のケアにつながることができた。
- 仮設住宅や地域との交流を続けたことで、児童の自尊感情の向上につながった。「人の役に立っている」という自己有用感も向上している。
- 保護者と防災マップも作成できた。児童を守るという保護者の意識も高まってきた。